

## ガス工事の効率化と環境保全を追求 “砂” 代替えに軽量ブロックを反復使用

京葉ガスではこのほど、ガス工事で掘削した道路を仮復旧する際に、砂の代わりに「EPS(※)ブロック」と呼ばれる発泡スチロールブロックを使う新工法「EPS仮復旧工法」を導入し、作業の効率化と廃棄物の削減を推進しています。

道路掘削を伴うガス工事で排出した掘削土は、再生できる一部を除き産業廃棄物として処理する必要があります。

ガス工事で道路を掘削した個所はその日の作業を終えた時点でいったん埋め戻し・仮舗装する必要があります。例えば、初日に新しいガス管を敷設し後日、2日目以降に行った別の工区と接続する場合や、2日目以降に既設配管との接続を行う場合などは、同一個所について複数回、掘削と埋め戻しを繰り返すこととなり、埋め戻し材（砂）の調達や掘削土の処理に費用と環境負荷がかかっています。

このほど仮埋め戻し材として導入したEPSブロックは、軽量で大型車両の荷重に耐えられ、繰り返し使用することができます。砂を使用した場合の埋め戻しならびに再掘削に比べると作業時間と廃棄物（掘削土）の大幅な削減が可能となります。また、砂の転圧作業がなくなることから騒音の抑制などの効果を上げており、今後広く活用していく方針です。

※ Expanded Polystyrol=発泡スチロール



掘削坑に隙間なく敷き詰められた発泡スチロールブロック